

UVN

## 川嶋あいドキュメンタリー映画「最後の言葉」

## Premiere Pro 1.5による非圧縮HD編集



高橋 雄弥氏



川嶋あいドキュメンタリー映画「最後の言葉」 © ダブルウィング

## 使用製品

- Adobe Premiere Pro

映画といえばフィルムで撮影から編集、上映まで行うのがあたりまえのように行われてきた工程だ。しかし、HD 機材のローコスト化と性能アップにより、すでに劇場上映用の映画までもフィルムレス化しつつある。Adobe® Premiere® Pro もまた、HD に対応しているため、廉価かつ高品質の HD 編集が行えるようになってきている。Premiere Pro に対応した HD 編集ソリューションも充実し、新たに Blackmagic 社の Decklink カードを使用したターンキーシステムも登場した。

そんな中、アーティスト川嶋あいのドキュメンタリー映画「最後の言葉」の制作に、複数の Premiere Pro と Decklink カードを使った HD 編集システムがフルに活用された。今回の映画は、ドキュメンタリー映画という性格上、膨大な量の素材を処理しなければならず、編集作業も 1 人で行うのではなく、数人が分担することになっていた。制作スタッフが全員 Premiere Pro を使うことができ、NG 抜きなどは Premiere Pro を使い、すでに作業が進んでいたこともあったため、最後まで Premiere Pro で編集を行ったほうが効率もよく、コストも大幅に削減できるというメリットがあったためである。

## 複数フォーマットの素材も同じ編集環境で扱える

本映画は、シンガーソングライター川嶋あいが、さまざまな困難を乗り越えながら路上で 1000 回のライブ活動を成し遂げていくその過程を追ったドキュメンタリー映画である。彼女の生い立ちや、2002 年フジテレビ系列で放映された「あいのり」のテーマソング「明日への扉」を歌う I WiSH としての活動、災害地での慰問ライブ、ボランティア活動の記録などを 114 分の映画にした作品だ。監督はドキュメンタリーテレビ制作に携わった後、2003 年よりフリーのディレクターとして映画の世界へ転向した高橋雄弥が担当し、数百本の DV テープと、その後同数の HDCAM や HDV といったフォーマットの素材が加わった。半分以上が HD 素材だが、SD 素

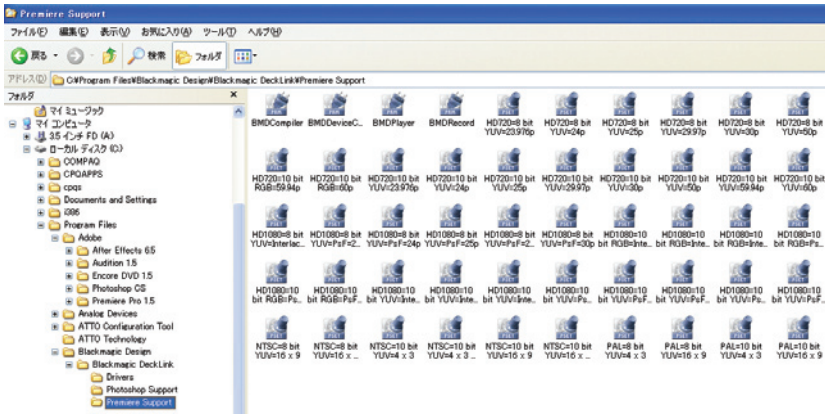
材も含まれることとなり、同一ソフト、制作環境で全てのフォーマットを扱える Premiere Pro は、非常に大きな役割を果たすことになったのである。

## 複数フォーマットの素材も同じ編集環境で扱える

最終的に劇場上映可能な映画に仕上げる必要があるため、非圧縮の HD フォーマットで出力できることが最低条件となっていた。各種フォーマットの素材を一度に取り込んで編集するのは現実的ではない。そこで、数人のプロデューサーがそれぞれ必要なカットのみを抜き出す作業を Premiere Pro で行い、ある程度素材のダイエットを済ませてから、オフライン、そして本編集を同一システム上を行った。編集を Premiere Pro で統一すること



Premiere Pro 操作画面



SD、HD の各フォーマットのほとんどをカバーする Decklink の初期設定ファイル一覧



今回使用された Decklink カードを使ったシステム。お問い合わせは Pro Video Reseller の (株)Too、へ

で、プロジェクトファイルを本編集にそのまま反映させることができたのである。実際これだけでも相当な効率化につながったという。すべての編集作業を Premiere Pro に統一したからこそできる芸当だ。

オフライン編集後、Premiere Pro のパッチキャプチャー機能で HDCAM 素材に差し替えてオンライン編集が行われた。MA は別工程で行い、最後に Premiere Pro に取り込んだ。非圧縮 HD の作業ながら、オフラインと同様の軽快な環境で作業を行うことができたという。

**SD も HD も同一システムで編集できる、  
HD 移行期にマッチしたシステム**

編集システムは、HP のワークステーション xw-8200 に Deck Link HD と HUGE の 1.2T バイトの RAID、Media Vault U320RX、Adobe Video Collection Professional を組み合わせたターンキーが使用された。Deck Link HD は、12 ビット非圧縮 HD デュアルリンク 4:4:4 に対応し、通常の HD-SDI4:2:2、SD-SDI にも対応。RS-422 コントロールポートも標準装備しているので、HDW-M2000、DSR-2000、DVW-A500 といったデッキのコントロール、SDI 経由でのパッチキャプチャーを含めた入出力も問題なく行える。

Premiere Pro と Decklink の組み合わせは、様々な SD・HD フォーマットに対応している。HD だけでも YUV/RGB、8 ビット/10 ビット、720/1080、さらにそこにフレームレートの組み合わせが加わるわけだが、その全てに対応している。編集の中心はもちろん Premiere Pro。オフラインからオンラインまで、全ての工程で使用され、DV から HD まで、どのような素材でも快適な編集を実現した。HD への移行期にある今、求められるシステムは SD、HD の双方に対応し、かつ複数台数の導入が可能な廉価なシステムであろう。そんな条件を満たした同システムは、今回の映画制作において、その実用性を確実に証明したのである。



「最後の言葉」のワンシーン  
© ダブルウィング

### 使い慣れた環境と進化した機能が 編集効率をさらに上げている

ディレクターの高橋雄弥氏は、長年 Premiere を使用している。同氏に、今回改めて Premiere Pro の使用感を聞いてみた。

「Premiere Pro は非常に使いやすいです。他のノンリニアソフトで編集したこともあるのですが、ユーザインタフェースに馴染めなくて、ずっと Premiere を使用しています。特に Pro になってからは、複数のタイムラインを持てるようになったので、ドキュメンタリー作品などの長尺ものの編集には非常に重宝しています。」

高橋氏の編集方法は、いくつかのパートに分けて編集し、最後に一本につなげてゆくことが多いため、タブで切り替えられるタイムライン、そして相互にコピー & ペーストが可能な点などは大きなメリットだという。「最後の映像を最初にもってくるとか、バリエーションの異なるものを作りながら試行錯誤ができるので、非常に便利なんです。」

DV、SD、HD、HDV。様々なフォーマットが扱われる現在の映像業界において、進化した Premiere Pro とそれをサポートする HD 編集システムは、時代のニーズに合ったソリューションと言えるだろう。

### お問い合わせ先

アドビ製品は、お近くのアドビ認定ディーラー (AAD: Adobe Advanced Dealer) でお買い求めください。AAD リストをはじめとする最新情報は、アドビシステムズホームページ ([www.adobe.co.jp](http://www.adobe.co.jp)) で入手して下さい。製品の購入に関する詳細はカスタマーインフォメーションセンター (tel.03-5350-0470) へお問い合わせください。

アドビシステムズ株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー・[www.adobe.co.jp](http://www.adobe.co.jp)  
Adobe Systems Incorporated 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA・[www.adobe.com](http://www.adobe.com)

アドビカスタマーインフォメーションセンター (製品に関するお問い合わせ) 03-5350-0470  
アドビストア (注文専用) フリーダイヤル 0120-60-3884 または 0120-61-3884

受付時間 9:30~17:30 土、日、祝日および弊社指定休日を除く

※アドビストアはアドビのオンラインストアです。

Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Premiere Pro および After Effects は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

© 2005 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.

